

石上いそのかみ ふつ みたま（石上布都魂神社）

～素戔鳴尊の大蛇（おろち）退治伝説
由緒をもつ神社の本宮磐座～

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 石上布都魂神社
5. アクセス

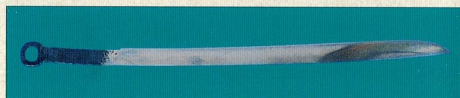
資料
番号

K14

初版：2025.11.9

神 剣

当社に奉納された素戔鳴命の剣は崇神天皇の時代に大和の石上神宮に移されたが、このことは石上神宮の御由緒記にも「もと備前国赤坂宮にありしが…」と記されている。



明治7年（1874）石上神宮では古記録に基づき、神剣発掘を行ったところ、真ッ赤に錆びた剣が出土した。これこそ素戔鳴命の大蛇退治の大蛇の庵正（あらまさ）の剣であるとし、大正年間に記録によって刀工月山貞一が三振り複製、その一振りがゆかりのある吉備の当社に奉納された。

※当神社由緒書きより抜粋



1. おすすめポイント

★由緒正しき神社とその本宮磐座

布都魂とは“剣の霊”とのこと。当神社ほど記紀や他神社の由緒と整合する例は珍しいのでは

神話の世界に繋がる磐座の前で霊気を感じ取ってください

2. 説明

下記枠内、参考文献1 八木 便乗. 岡山の祭祀遺跡（岡山文庫145）. 日本文教出版, 1990, p88～89より引用させていただきます

石上

赤磐郡吉井町

岡山県のほぼ中央部、国鉄津山線、金川駅から東北方へ約九段ばかり、赤磐郡吉井町石上字風呂谷式内社石上布都魂神社、現社殿は大松山中腹に、古代この神を象徴したとする神石は山頂に鎮まる。

文献、伝承等を失する神の多い中で、この社は珍しくその由緒をも克明に伝え残して、その神威と風雪を積み負う所、参詣する者の心に深く刻むものがある。

祭神についても文献は明確に示し、現在の祭神は素戔鳴尊をもつて当っているが（明治六年）、「延喜式内神社、国史見在之神社」には、「十握劔」をもつて祭神と記し、以降各時代の諸文献も又一貫して前述の「延喜式」に準拠している。

日本書紀

第三ノ一書

「其の素戔鳴尊の蛇を断る劔は今、吉備の神部の許に在るなり」さらに、

第二ノ一書

「其の蛇を断ち給へる劔は号して曰く蛇の鹿正今石上ノ宮に在るなり」

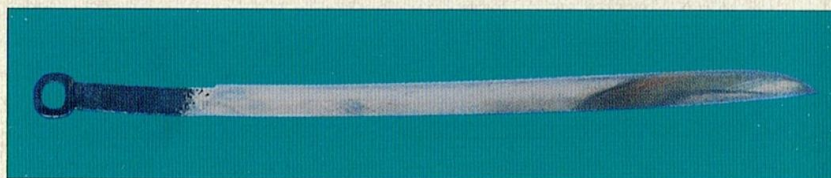
又、奈良県官幣大社、石上神宮御田緒記には「素戔鳴尊…天十握劔を以て、八岐の大蛇を斬り給へり…もと備前国赤坂ノ宮にありしが仁徳天皇の御代…当神宮に遷し加え祭る」とある。等々、以上は備前の石上に宝劔を奉蔵した事実を伝えるもので、やがて中央が政、經的に体制を整えゆく過程で、地域に在って、由緒を持つ物件を徴収してしかるべき部署に、管理収蔵した模様がうかがい知れる。

2-1

下記、石上布都魂神社の由緒書より一部抜粋して紹介致します。

神 劔

当社に奉納された素戔鳴命の劔は崇神天皇の時代到大和の石上神宮に移されたが、このことは石上神宮の御由緒記にも「もと備前国赤坂宮にありしが…」と記されている。



明治7年（1874）石上神宮では古記録に基づき、神劔発掘を行ったところ、真っ赤に錆びた劔が出土した。これこそ素戔鳴命の大蛇退治の大蛇の鹿正（あらまさ）の劔であるとし、大正年間に記録によって刀工月山貞一が三振り複製、その一振りがゆかりのある吉備の当社に奉納された。

2-2

同由緒書によれば布都魂（ふつみたま）とは“劔の霊”である由



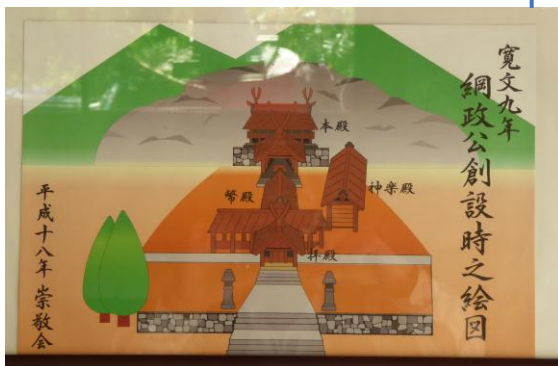
3-1

山頂 背後の大きな岩の露頭が磐座



3-2

パノラマ写真



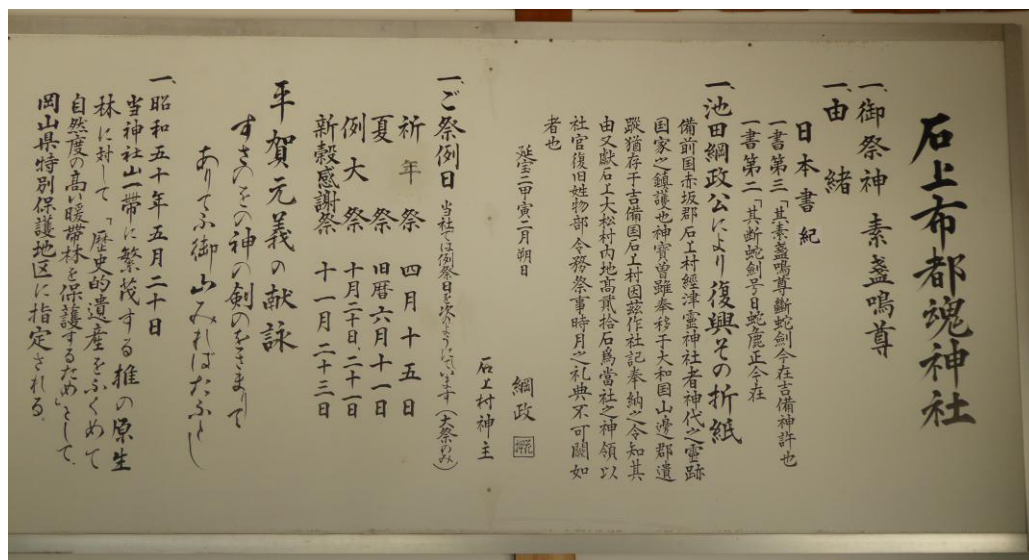
3-3



3-4

4. 石上布都魂神社

2018.05.12



4-1



4-2



4-3

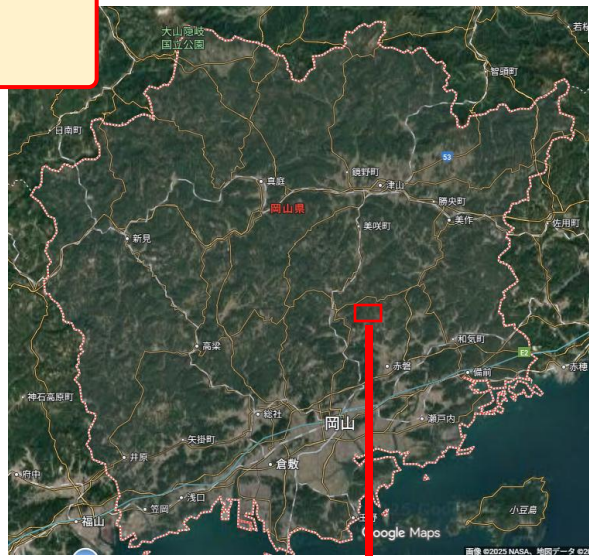


4-4

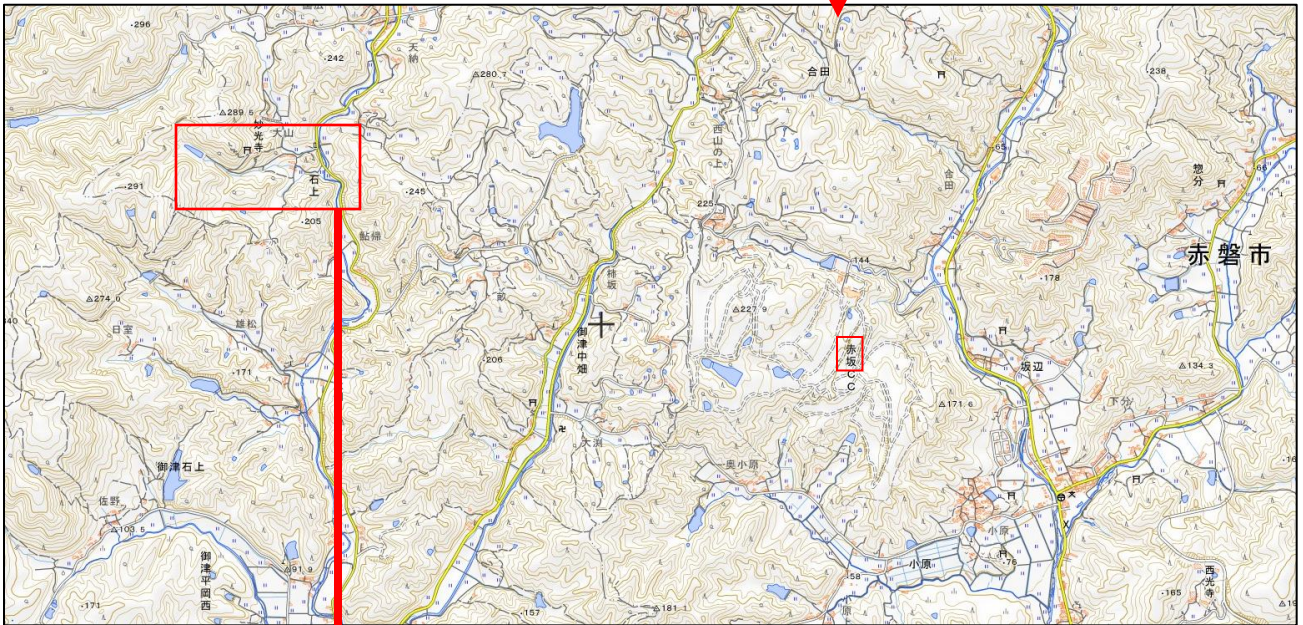
5. アクセス



5-1

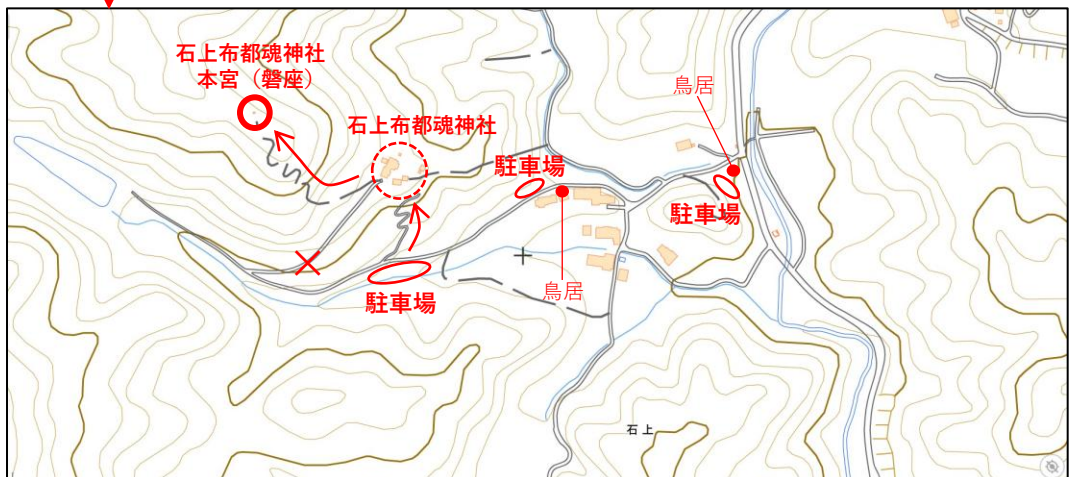


Google Map



5-2

地理院地図に赤で追記



5-3

参考文献

- 1) 八木 便乗. 岡山の祭祀遺跡（岡山文庫145）. 日本文教出版, 1990, 173p.